

お買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。この説明書は、必ず保管してください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

警告	死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
注意	軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害の発生するおそれがある場合を示します。

お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。

- 注意する
- してはいけない
- 必ず守る

吊上げ時および搬送時のご注意

警告

本製品を吊上げる場合には、必ず4か所で吊上げ、天板の水平面に対して45°以上の角度で均一な荷重にしてください。
2か所での吊上げや45°未満の吊上げ角度、吊上げ荷重オーバーは落下・破損・けがの原因になります。

吊角度と吊上げ荷重(4点吊り)

吊角度θ	吊上げ荷重(キャビネット+搭載物)
45°	4.31kN まで
90°	8.62kN まで※1

※1 ただし、搭載物質量は最大500kg までとなります。

キャビネットの製品質量はカタログをご覧ください。

吊上げ時にアイボルトをゆるめた場合は、必ず右表の適正締付トルク値にて締め直してください。天板はアイボルトで固定しているため、ゆるみにより天板が落下し、破損・けがの原因になります。

本製品を連結した状態で吊上げ作業は行わないでください。変形・落下・けがの原因になります。

本製品をワイヤーなどで荷台に固定する場合は、扉に直接荷重がかかる方向において、荷締器具による締めすぎにご注意ください。締め過ぎにより蝶番が破壊し、扉の転倒・けがの原因になります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m
アイボルト M12×22	11.8 ~ 24.5

施工上のご注意

警告

感電防止のため、必ず接地(アース)をしてください。接地端子は前面下のフレーム中央にあります。各パネル(扉・側板・背面板・天板)には溶接ナット M6 がありますので、必要に応じて各パネルとフレーム間の導通にご利用ください。

アースせよ

電気工事(取付・施工)は、有資格者が行ってください。故障・感電・けがの原因になります。

電気工事は「電気設備技術基準」および「内線規程」を厳守してください。故障・感電・けがの原因になります。

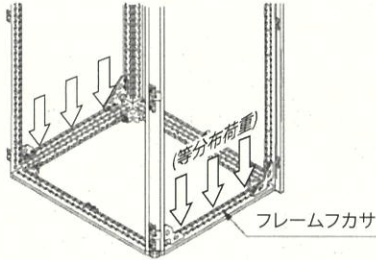
⚠ 注意



本製品は屋内用です。屋外では使用できません。

アングルなどを使って設置面を上げる際は、下側からキャビネット内部に水が浸入するおそれがあります。

搭載可能質量を超える物を取り付けしないでください。転倒・性能の劣化・破損・けがの原因になります。組立式 FZC は前後のフレーム枠とフレームフカサが分割した構造です。フレームフカサへ重量物を搭載する場合は局部的な荷重を避け、等分布にて搭載してください。



	搭載可能質量	
	耐荷重性能	耐震性能※
FZC	500kg	250kg
フレームフカサ(左右2本で)	300kg(等分布)	—
扉部のみ	60kg	—

※ 耐震性能はFZC本体に鉄製基板セット、またはラックマウントセットを使用し、弊社搭載条件により評価を行っています。

本製品に落下などの強い衝撃を与えないでください。へコミや歪みが発生し、強度低下の原因になります。

本製品は重量物です。組立の際は、必ず2人以上で作業してください。けがの原因になります。

組立作業は床に凸凹がなく、必ず水平のとれた場所で行ってください。条件を満たしていない場所ではフレームの対角が出せないおそれがあります。

必ず水平な床面に設置してください。床面が水平でないと扉がひずみ、IP性能を保持することができなくなり、機器の故障・けがの原因になります。

重量物は低い位置に設置し、重心位置を低くしてください。また扉部ではできるだけ蝶番側に設置してください。転倒・破損・けがの原因になります。

キャビネット下部の下面開口プレートは、下部入出線口カバー用で強度がありません。荷重は、基台またはフレームで直接受けるようにしてください。

アンカーボルト固定前に扉を開ける際は、前倒防止の処置をしてから扉を開けてください。扉を開けると前倒れし、けがの原因になります。

所定のアンカーボルト以外にも必要に応じ転倒防止の処置を行ってください。キャビネット奥行が浅いものや高さの高いものは、機器の取付位置、質量等により地震時に転倒するおそれがあります。

床面が平行でなく扉にひずみが生じた場合はスペーサなどにより設置面が平行になるように調整してください。

調整方法

- 扉が①の方向にひずんだ時は、
 ↑①の箇所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。
 扉が②の方向にひずんだ時は、
 ↑②の箇所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。

【オプションパーツのご案内】

スペーサには、オプションの「基台用スペーサ」をご利用ください。

名称	品名記号	摘要
基台用 スペーサ	BP17-10SU	U字(アンカーボルト用,t1.0)
	BP17-1030S	50mm角(t1.0,t3.0)

使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取付けの際は、適正締付トルク値にて締付けてください。締付けが不十分の場合、破損・落下・所定のIP性能が得られないなどの原因となります。また締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※1
フランジ六角ボルト(タッピン)M5×10	1.8~2.9
±PW付小ねじM6×12	2.9~4.4
溶接ナットM6取付用 ±3点セムス六角ボルトM6×12	3.0~4.0
±3点セムス六角ボルトM8×18	7.8~13.7
±3点セムス六角アースボルトM8×12	5.5~7.0※2
アイボルトM12×22	11.8~24.5

※1 ただし、タッピンねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

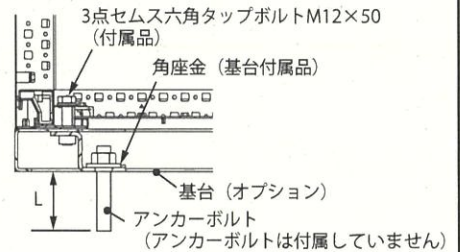
※2 ドライバー以外の工具で締付けるねじは8.0~13.0N・m

本製品は、オプションの基台 (FCX-ZZA) を使用して設置してください。基台への取付は3点セムス六角タップボルト M12×50 (付属品) を使用し、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下・所定のIP性能が得られないなどの原因となります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※
3点セムス六角タップボルトM12×50	33.6~50.4

※ ただし、タッピンねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りではありません。

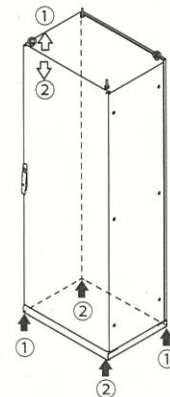
基台は、耐震対策のため、必ず角座金 (基台付属品) で補強し、アンカーボルトで固定してください。



アンカーボルトはキャビネット寸法および搭載品の質量・位置などを考慮の上、選定してください。

アンカーボルト径	最小埋込深さL※	短期許容引抜荷重※
M12	60mm	6.7kN
M16	70mm	9.2kN

※ 一般的な床スラブ上面でのあと施工金属拡張アンカーボルト (おねじ形) 使用時における参考値です。設置場所、アンカーボルト種類によって値は大きく変わります。




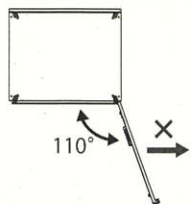



■使用上のご注意

⚠ 警告

❗ 長期間の使用で取付部(ねじ、ナット)などの傷みやゆるみがないか、定期的に点検してください。傷みがある場合は交換し、ゆるみがある場合は適正締付トルクにて増締めをしてください。破損、落下、所定の IP 性能が得られないなどの原因になります。

⚠ 注意

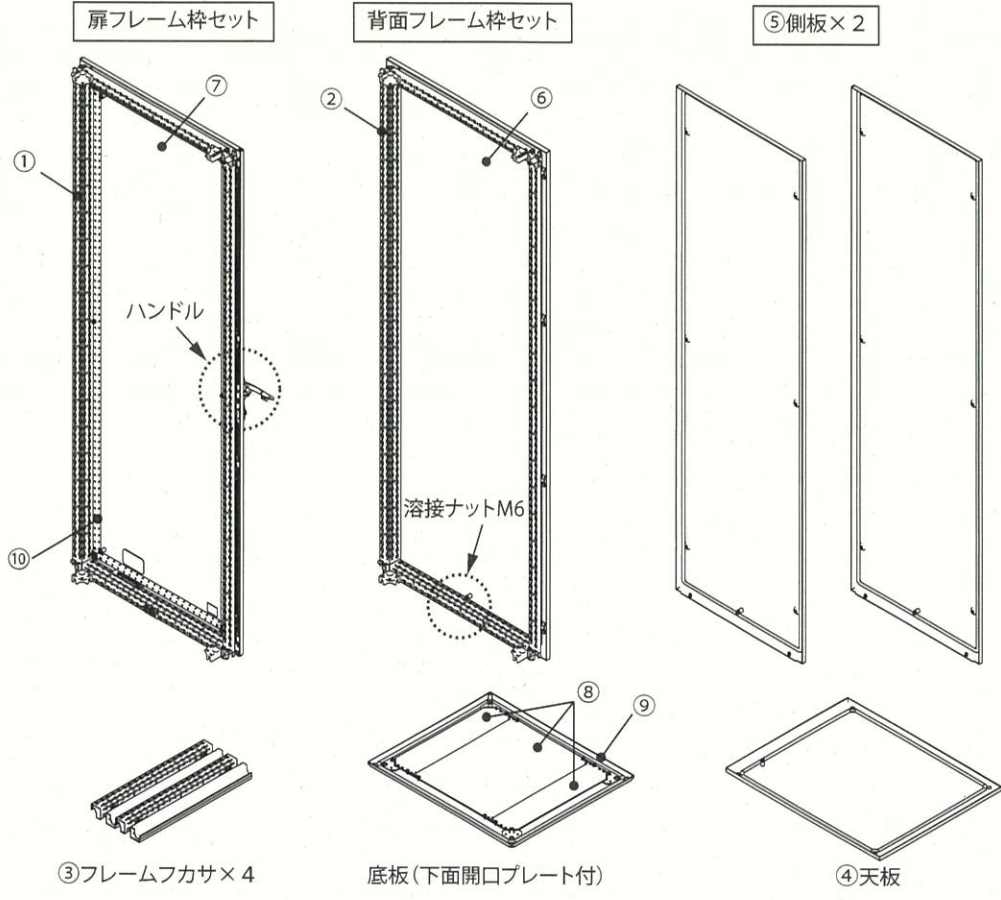
 指に注意	扉を勢いよく閉めないでください。指を挟みけがの原因になります。	ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重をかけないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。
	パッキンを剥がさないでください。IP 性能を保持することができなくなります。	シリンダーの施錠・解錠位置以外では、キーを無理に引き抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。
	ギアピンヒンジ・ロッド棒受金具は外したままにしないでください。IP 性能を保持することができなくなります。	 扉の開閉角度は約 110°です。扉を開けた状態で右図の矢印方向にさらに荷重を掛けないでください。蝶番部および扉の変形・破損の原因になります。 
	次のような場所では使用しないでください。故障・けがの原因になります。 <ul style="list-style-type: none"> ・高温、高湿となる場所 ・腐食性ガスのある場所 ・振動、衝撃のある場所 ・可燃性ガスのある場所 ・塵埃やオイルミストが多い場所 ・ノイズ(電界、磁界)の強い場所 ・導電性粉塵(カーボン繊維・金属粉など)のある場所 ・有機溶剤のかかる場所 ・塩分を多く含んだ場所 ・水滴のかかる場所 	 天井面への局所的な荷重を避けてください。変形の原因になります。 扉開放時には、必ずフレーム下に設置されているドアストッパを扉に掛けて固定してください。扉が閉まり、けがの原因になります。 ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。キーの抜き差しが硬くなるおそれがあります。

■穴加工について

⚠ 注意

❗ 組立式 FZC は IEC60529 規格に基づく保護等級 IP3XD です。穴加工をした場合、その性能は保証できなくなります。穴加工した場合に取付けるパーツは、IP 性能に合致したものを使用し、保護等級に応じた処置を行ってください。

■部品一覧



●付属品

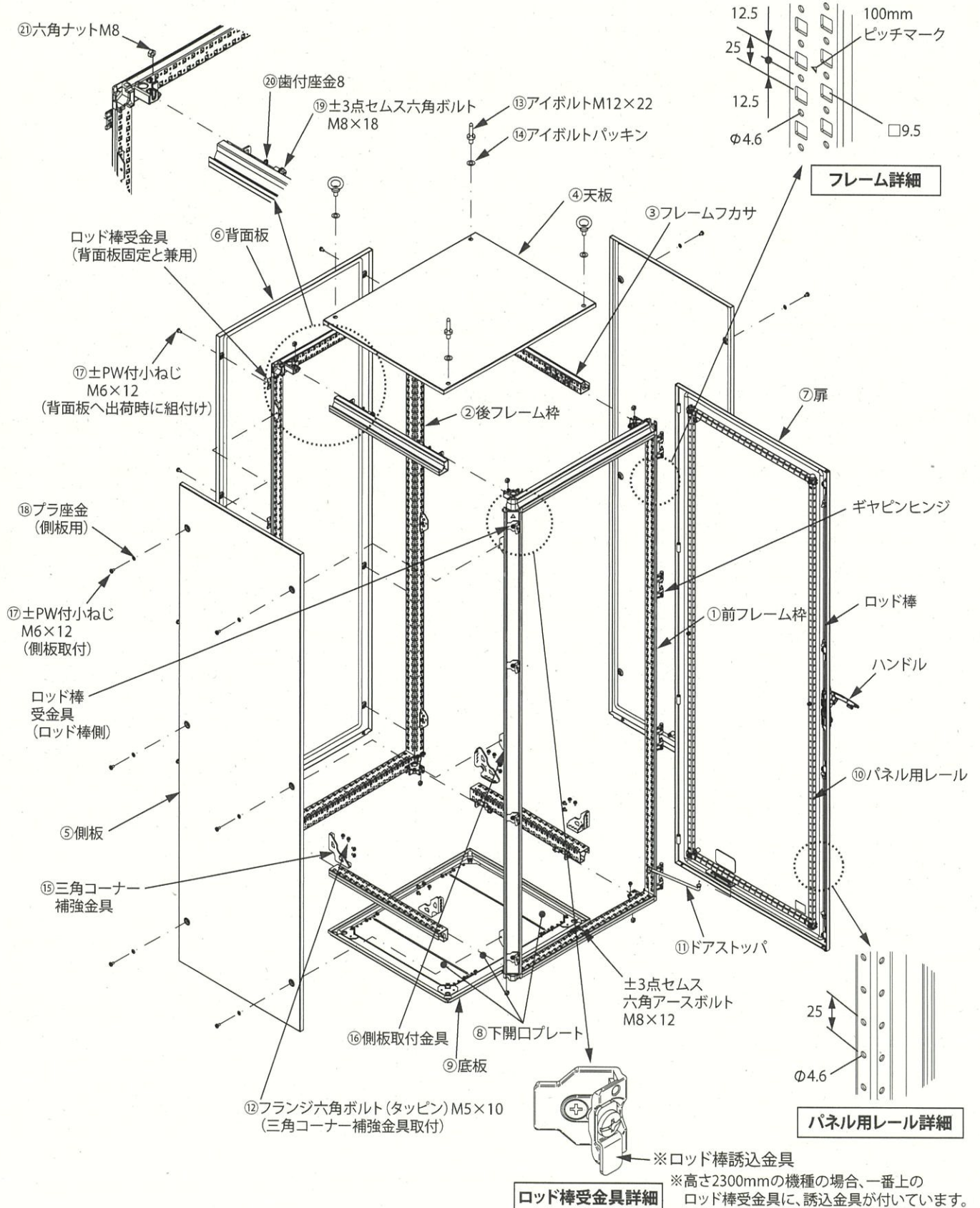
番号	部品名	材質	板厚
①	前フレーム枠	鋼板・塗装	t1.6
②	後フレーム枠		t1.6
③	フレームフカサ		t1.6
④	天板		t1.6
⑤	側板		t1.6
⑥	背面板		t1.6
⑦	扉		t2.3
⑧	下面開口プレート		t1.6
⑨	底板		t1.6
⑩	パネル用レール	溶融亜鉛めっき鋼板	t1.6

番号	部品名	姿図	用途	数量	使用工具
⑪	ドアストップ		ドア開閉の固定	1コ	
⑫	フランジ六角ボルト(タッピン)M5×10		底板・側板取付金具・三角コーナー補強金具の取付け	32コ	⊕ドライバー(#2)
⑬	アイボルトM12×22		天板取付け	4コ	
⑭	アイボルトパッキン		アイボルト防水・防塵	4コ	
⑮	三角コーナー補強金具		側面对角の確保と補強	4コ	
⑯	側板取付金具		側板取付け	12コ	
⑰	±PW付小ねじM6×12		側板取付け	12コ	⊕ドライバー(#3)
⑱	プラ座金		側板防水・防塵	12コ	
⑲	±3点セムス六角ボルトM8×18		フレーム組立	8コ	ソケットレンチ13mm
⑳	歯付座金8(外歯形)		フレーム導通	4コ	
㉑	六角ナットM8		フレーム組立	8コ	
㉒	3点セムス六角タップボルトM12×50		基台取付け(基台はオプション)	4コ	ソケットレンチ19mm
㉓	アースラベル		接地端子の表示	10枚	
㉔	キー(キーNo.N200)		扉の施錠	1コ	

仕様

屋内用：IP3XD

塗装色	ライトベージュ塗装 (5Y7/1)
材質	鉄
キャビネット板厚	扉 2.3mm 天板、側板、背面板、底板、下面開口プレート 1.6mm
ハンドル	IPハンドル
扉形式	片扉



■組立手順

1. 扉フレーム枠セットの分解(扉の取外し)

⚠警告



前フレーム枠を起す際は扉を支えて作業をしてください。支えがないと転倒によりけがや破損の原因になります。

⚠注意



扉フレーム枠は重量物です。けが防止のため、1人で着脱作業を行わないでください。

(1) 枕木等の上に扉側を下にして扉フレーム枠セットを置き、前フレーム枠を90°以上起こし、ギヤピンヒンジのねじ部を図の矢印の方向に⊕ドライバー(#2)で回して蝶番ピンのはめ合いを全て外します。(図1)

ご注意 扉フレーム枠セットは枕木の上に置いて必ずハンドルを逃がしてください。ハンドルを逃がさないと、前フレーム枠を起す際にハンドルが開閉できなくなります。

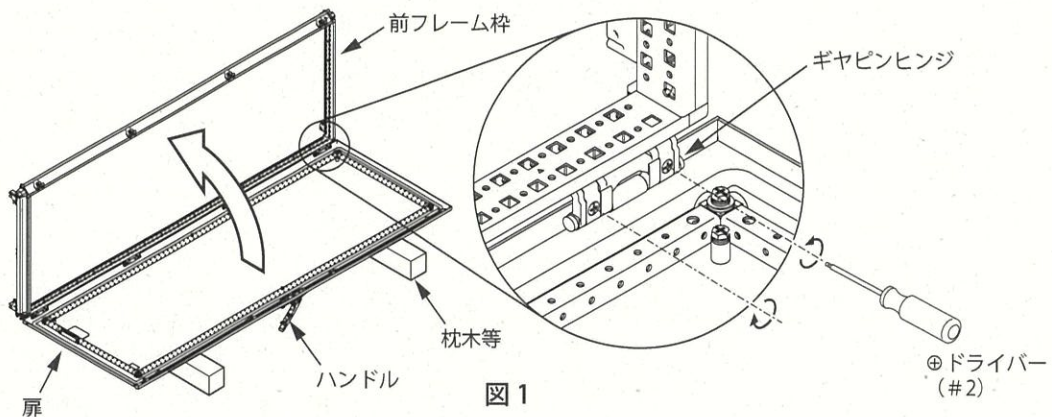
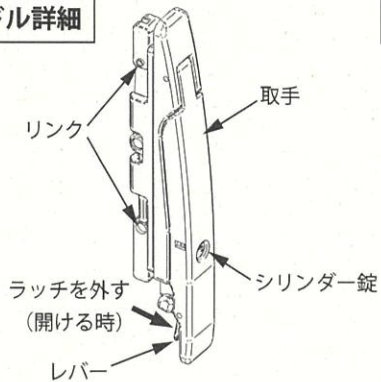
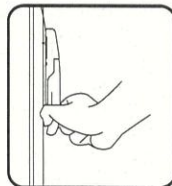


図1

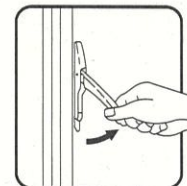
ハンドル詳細



開け方



(1) 指先でハンドル下側内部のレバーを引きラッチを外す。



(2) そのまま引き、取手を持って扉を開ける。

(機構上、取手が途中で止まる場合がありますが故障ではありません。ロッド棒のロックが解除されるまでしっかり引いてください。)

(2) 蝶番ピンのはめ合いが外れていることを確認し、扉と前フレーム枠を外します。(図2)

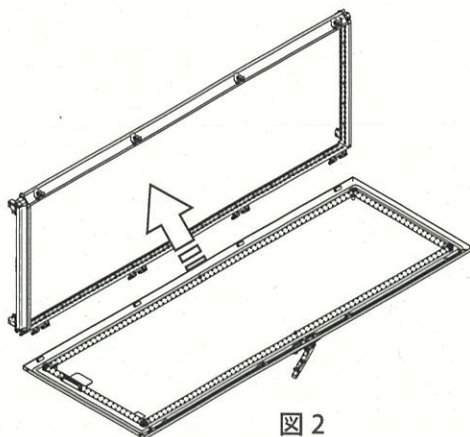


図2

2. フレームの組立

⚠ 注意

六角ナット M8 は、角が尖っている方をボルトに向けて入れてください。逆に入れると導通がとれなくなります。

歯付座金は天側の 4 か所に入れてください。入れ忘れると導通が取れなくなります。

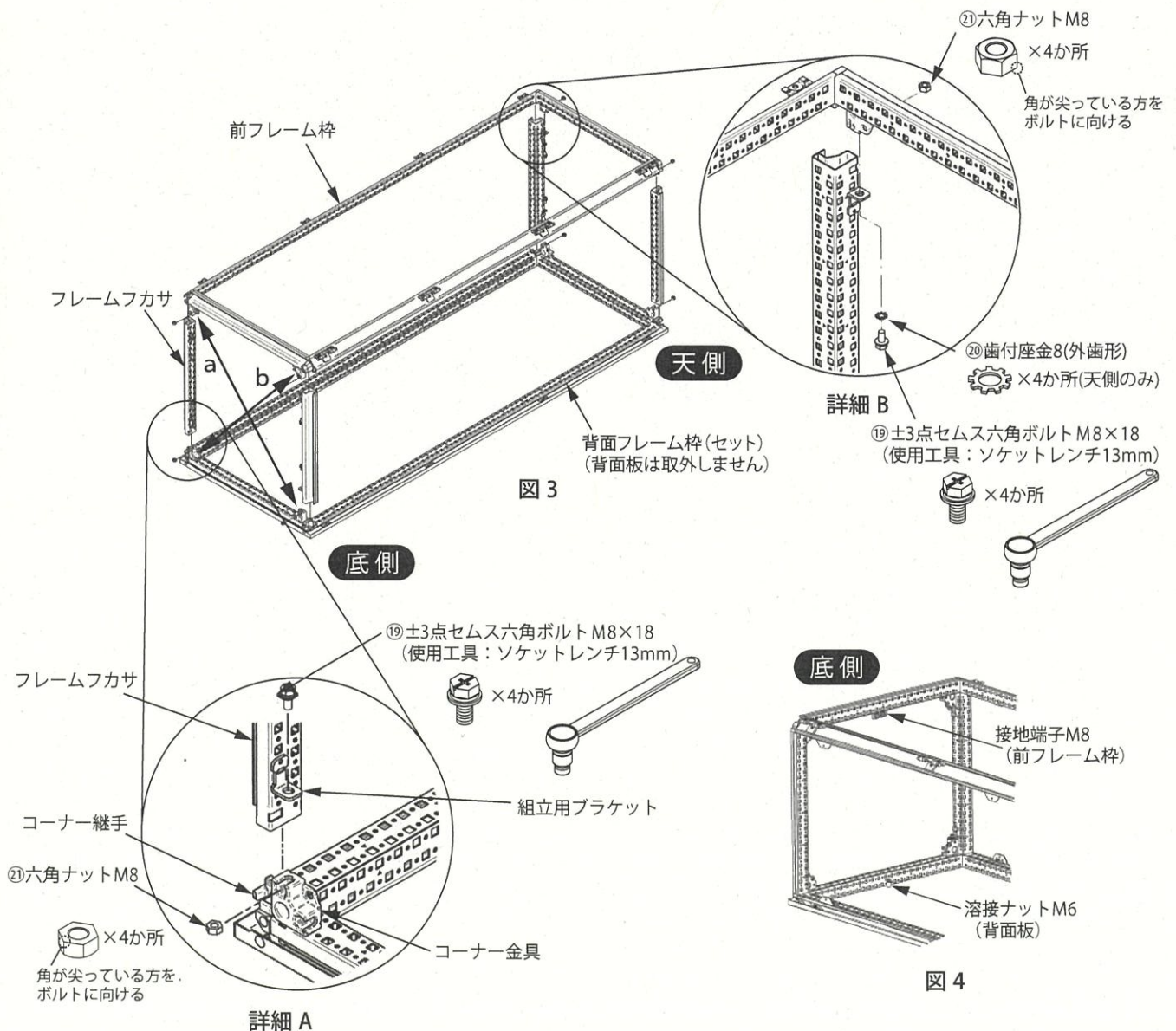


使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。
締付けが不十分な場合、破損・落下・所定のIP性能が得られない
などの原因になります。
また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルクN・m※
フランジ六角ボルト(タッピン)M5×10	1.8~2.9
±3点セムス六角ボルトM8×18	7.8~13.7

※ ただし、タッピンねじにおいて締付時の初期トルクはこの限りでは
ありません。

- (1) 背面フレーム枠(セット)を下にして、フレームフカサ 4 本をコーナー継手に差し込みます。(図 3 詳細 A)
続いて、接地端子 M8 のある側を底側となるように注意して、前フレーム枠を同じように差し込みます。(図 4)
- (2) 六角ナット M8 をコーナー金具のナット挿入部に挿入し、±3 点セムス六角ボルト M8×18 にて組立用ブラケットとコーナー金具を、天側 4 か所・底側 4 か所 仮止めしてください。なお、天側 4 か所のみ ±3 点セムス六角ボルト M8×18 に歯付座金 8 をセットしてください。(図 3 詳細 A、B)
- (3) 底側の 2 つの対角 a、b を測り、a 寸法と b 寸法の差が 4mm 以内となるよう調整しながら、底側 4 か所の ±3 点セムス六角ボルト M8×18 のみ本締めしてください。
(対角の調整方法は、次ページ「ワンポイントアドバイス」を参照)



(4) 底側の4か所に三角コーナー補強金具を仮止めしてください。(図5 詳細A)

(5) 天面の2つの対角 a、bを測り、a寸法とb寸法の差が4mm以内となるよう調整しながら、天側4か所の±3点セムス六角ボルトM8×18のみ本締めしてください。奥行方向の開口寸法(下表参照)を確認してください。(図5)

(6) 三角コーナー補強金具を本締めしてください。両側面の2つの対角 c、dを測り、それぞれのc寸法とd寸法の差が4mm以内であることを確認してください。

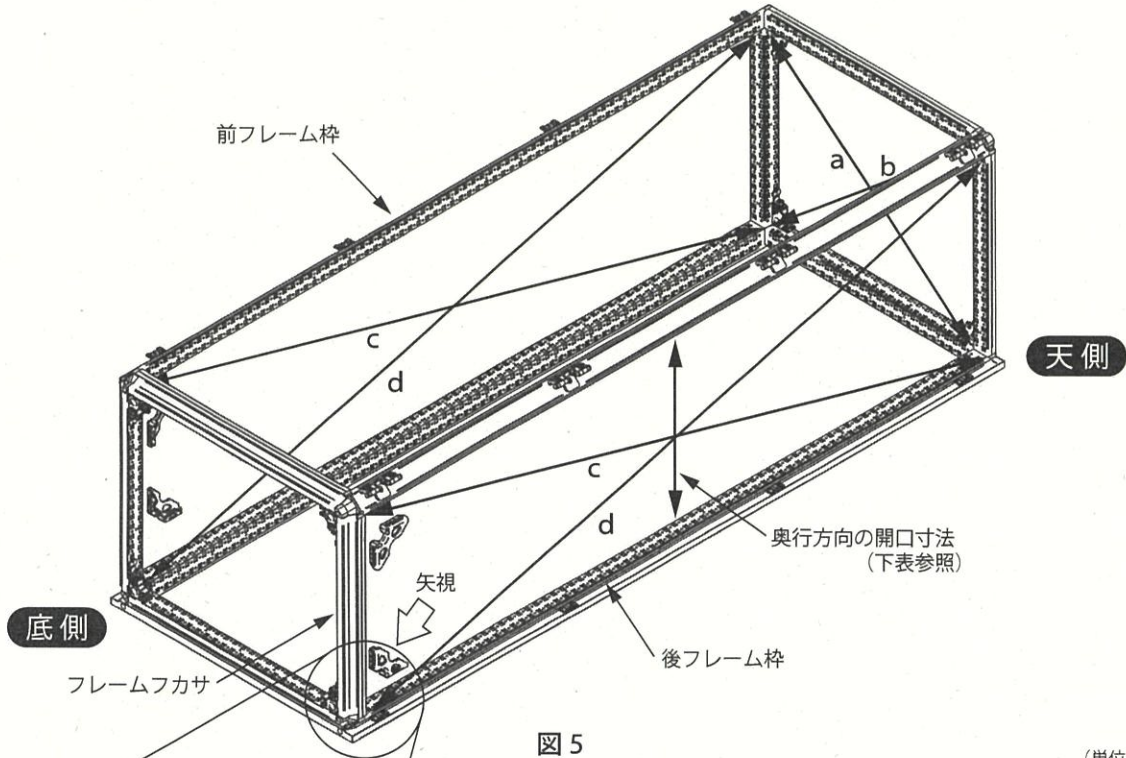
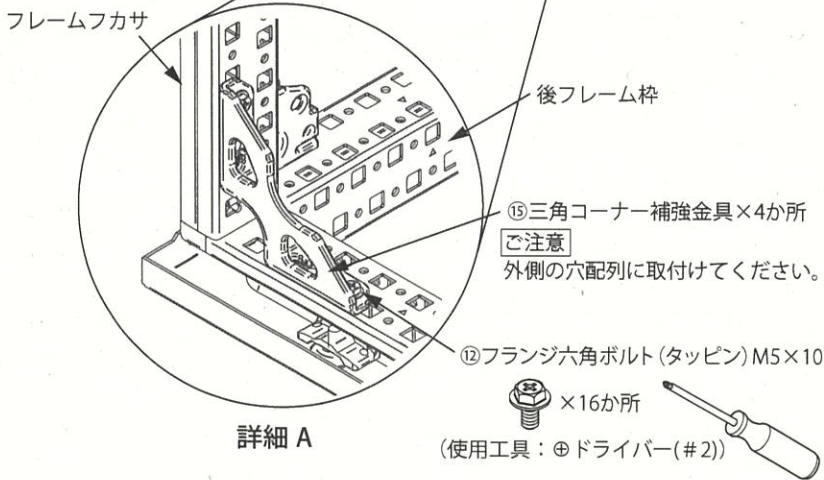


図5

(単位: mm)

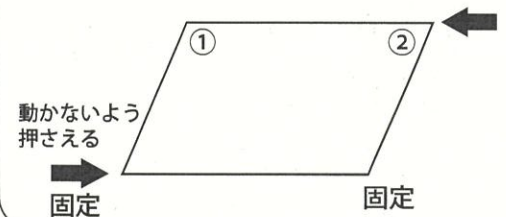
名称	FZC60	FZC80
公称フカサ寸法	600	800
奥行方向の開口寸法	505 ±2	705 ±2



詳細A

ワンポイントアドバイス! (対角の調整方法)

先に下側2か所のみ締め付け、対角を計ります。フレーム枠が平行四辺形になっている場合は、下側の鋭角部が動かないように押さえながら②側から押して対角を調整後、①のねじを先に締め、次に②のねじを締めてください。



【IP 性能を向上させたい場合のシール処理方法】

⚠ 注意

<p>シール材は付属されておりません。設置環境を十分に考慮の上、適切な材料を選定してください。シール処理を行った場合でも、アングル等を使って設置面を上げる際は、下側からキャビネット内部に水が浸入するおそれがあります。</p> <p>側板のパッキンが当たる部分のシール材はできるだけ平らになるよう馴染ませてください。突起が大きいと水・埃の侵入、またはパッキンを傷つけるおそれがあります。</p>	<p>パネルなどの組付けは、必ずシール材が硬化してから行ってください。硬化前に組付けしめすとパッキンが剥がれる原因となります。硬化時間はシール材によって異なりますので、シール材の取扱説明書を事前にご確認ください。</p>
--	--

前(または後)フレーム枠とフレームフカサが接続される部分(全8か所)に、段差がしっかり埋まるようにシール材を塗布してください。

ワンポイントアドバイス!

☆印の箇所は裏面と表面の両側を塗布することでシール処理不良を少なくすることができます。ビニール手袋など直接触らないようにして指で塗り込むと、よりシール処理を確実にできます。

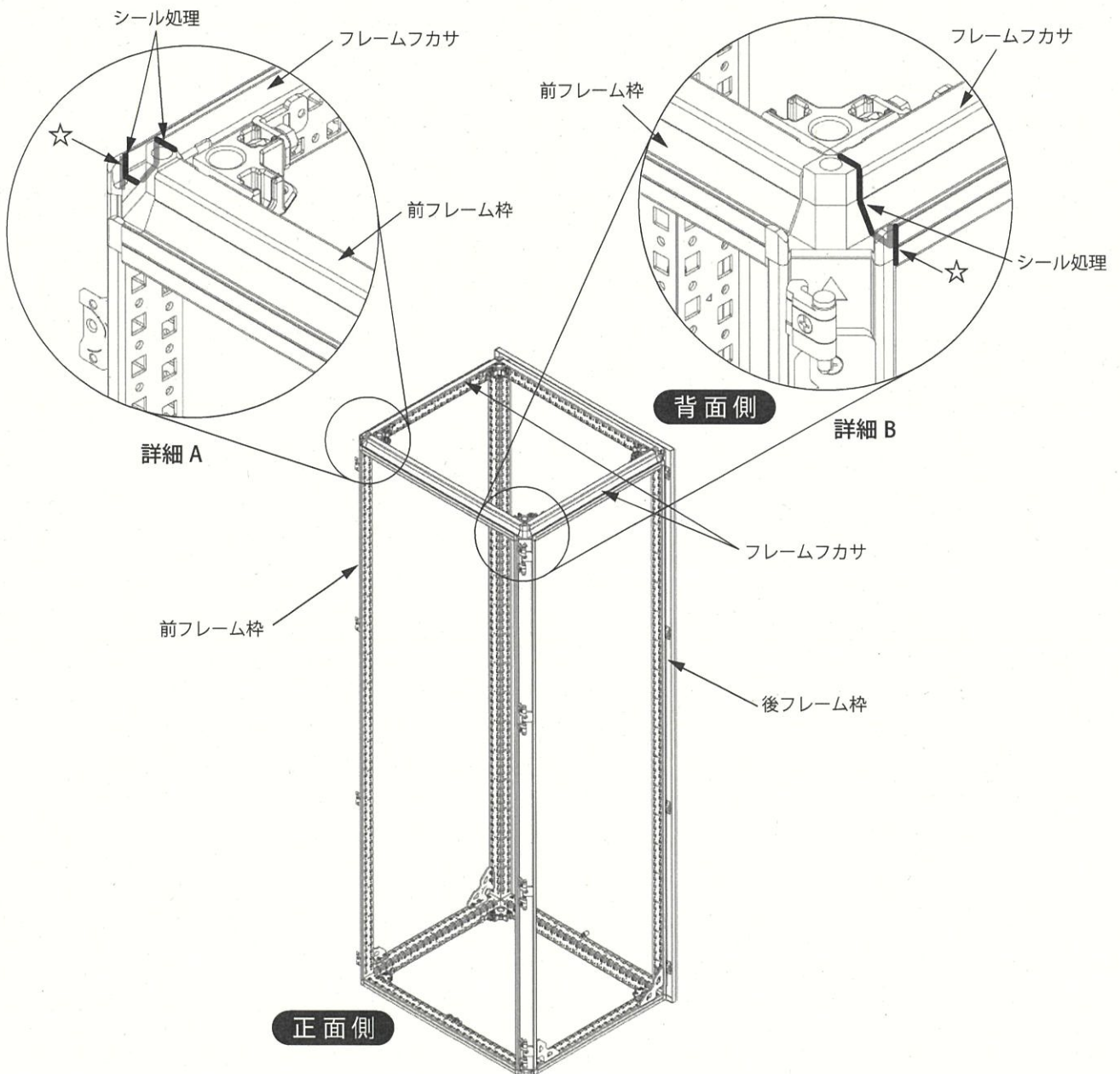


図 6

3. 天板の取付け

⚠ 注意

!	必ずアイボルトパッキンを挟んでください。パッキン忘れによりIP性能を保持することができなくなります。	!	使用するアイボルトは指定されたものを使用してください。取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下・所定のIP性能が得られないなどの原因になります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>ねじの呼び</th> <th>適正締付トルク N・m</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アイボルト M12×22</td> <td>11.8 ~ 24.5</td> </tr> </tbody> </table>		ねじの呼び	適正締付トルク N・m	アイボルト M12×22	11.8 ~ 24.5
ねじの呼び	適正締付トルク N・m						
アイボルト M12×22	11.8 ~ 24.5						

(1) キャビネットを寝かせたまま、天板を取付けます。(図7 詳細 A) この際、天板の内側にある溶接ナット M6 が正面の蝶番側になるように取り付けてください。

(2) 全てのアイボルトが仮止めできることを確認してから、コーナー継手に突き当たるまで本締めしてください。

ワンポイントアドバイス!

コーナー継手のM12タップ部をあらかじめ再タップすることにより、アイボルトM12×22を楽に取付けることができます。ただし、タップ長さ(22mm)を超えて再タップしないよう注意してください。

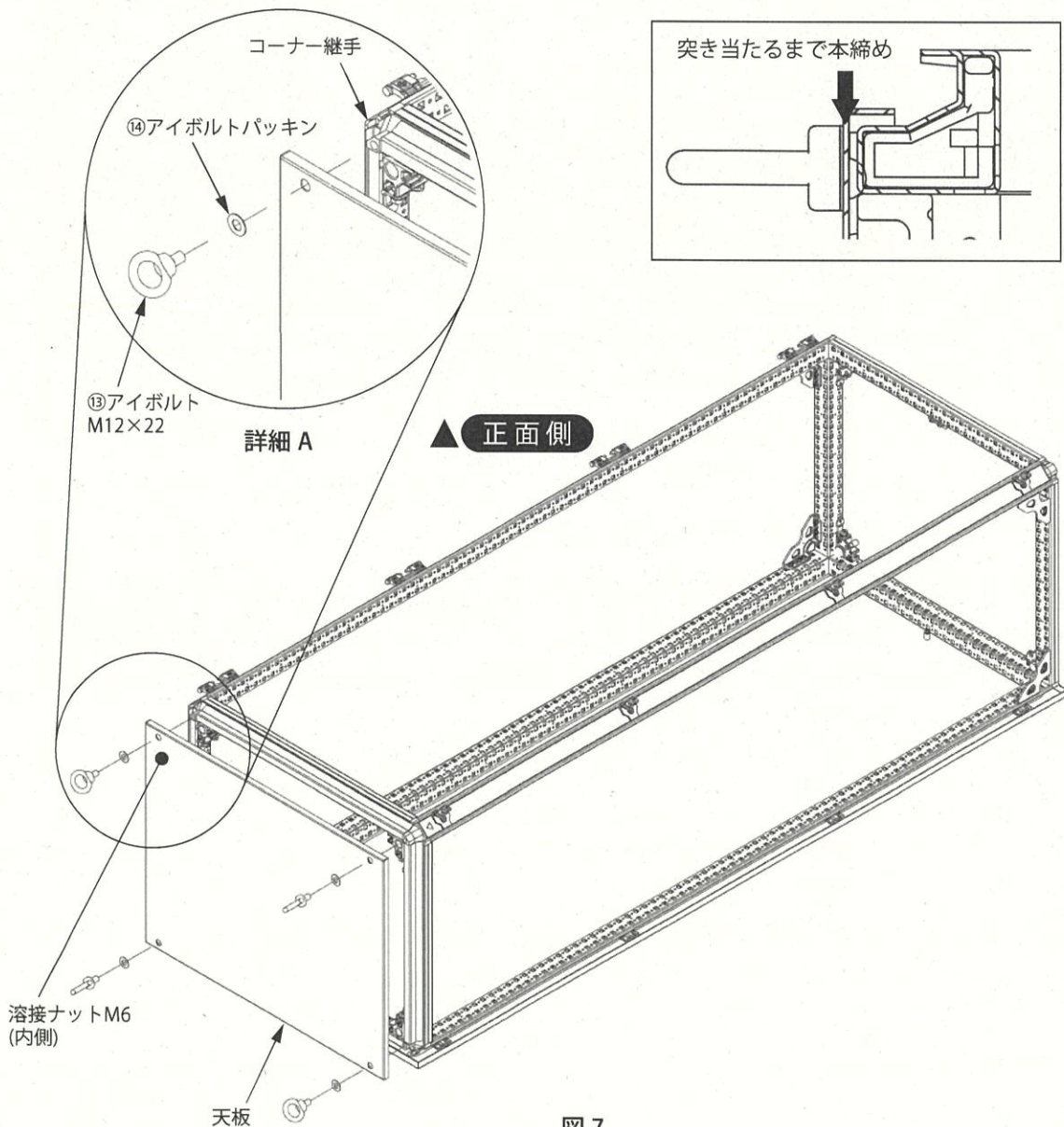


図7

4. 側板取付金具の取付け

⚠ 注意



使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締付けが不十分な場合、破損・落下・所定の IP 性能が得られない
などの原因になります。
また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m※
フランジ六角ボルト (タッピン) M5×10	1.8 ~ 2.9

※ただし、タッピンねじにおいて締付けの時の初期値はこの限りでは
ありません。

- (1) キャビネットを寝かせたまま、フレームタテの側面側に側板取付金具 12 か所を取付けます。フレームタテ 1 本につき、上 (外側穴配列の上から 5 番目の丸穴)、真中 (同配列のちょうど真中)、下 (同配列の下から 5 番目の丸穴) の 3 か所に取付けます。(図 8 詳細 A、B、C)

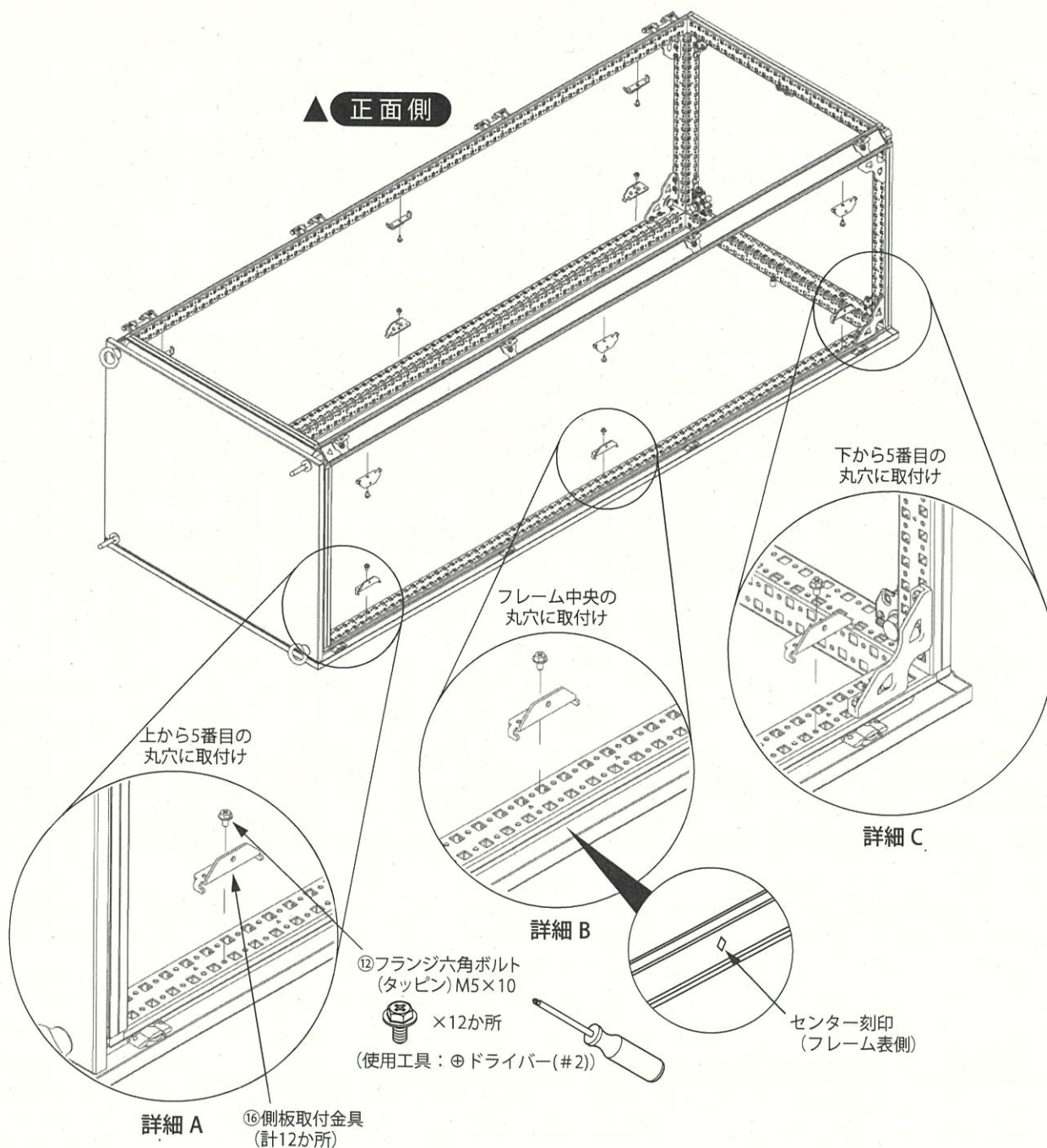


図 8

5. 底板の取付け

⚠ 注意



本体は重量物です。けが防止のため、一人で作業を行わないでください。

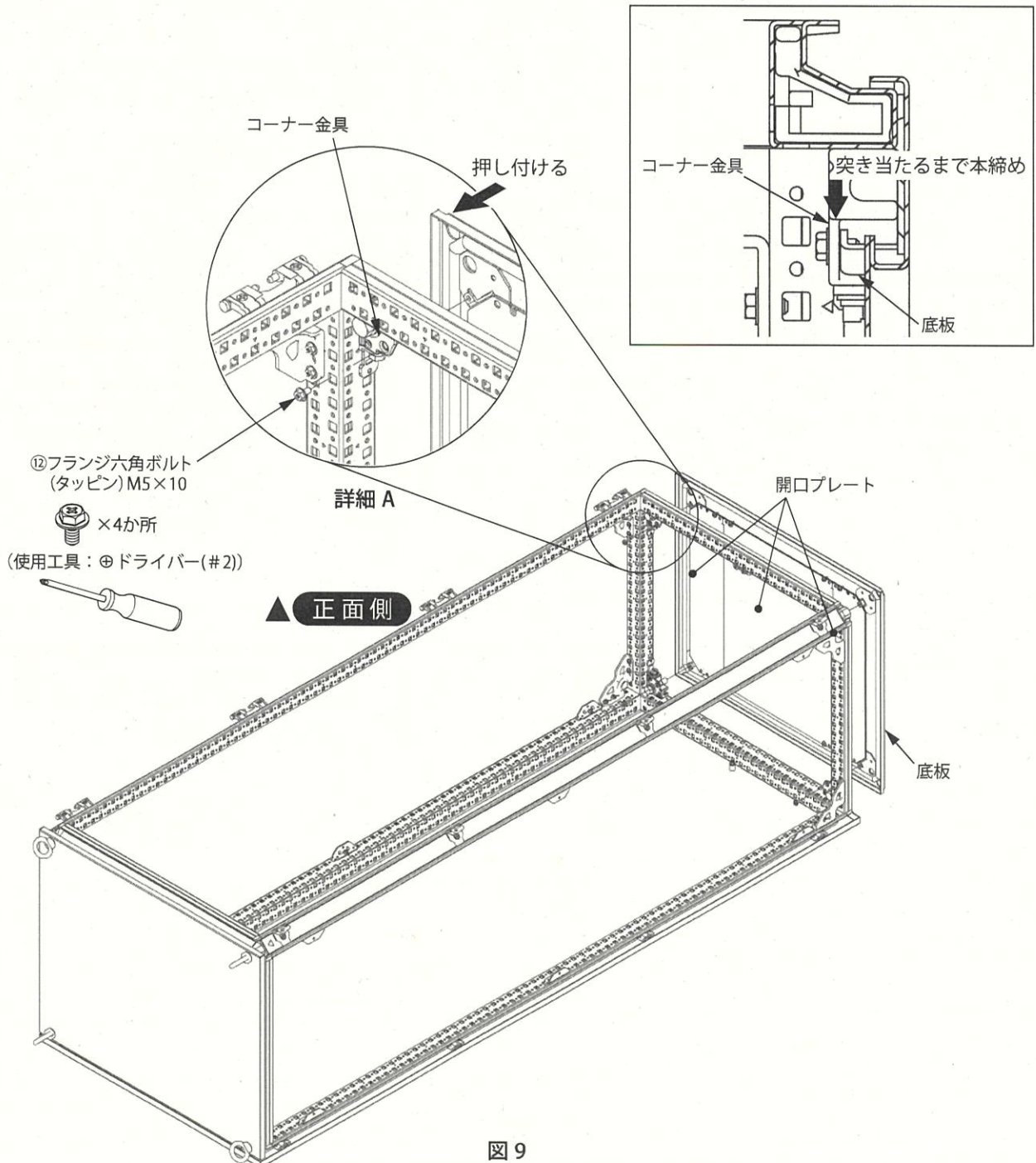


使用するねじなどは指定されたものを使用してください。
取付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。
締付けが不十分な場合、破損・落下・所定の IP 性能が得られない
などの原因になります。
また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m※
フランジ六角ボルト (タッピン) M5×10	1.8 ~ 2.9

※ただし、タッピンねじにおいて締付けの時の初期値はこの限りではありません。

- (1) 底板を裏から押し付けながら仮止めします。(図 9 詳細 A) この際、下面開口プレート^①の設置方向に注意してください。
(左右方向に3分割)
- (2) 全てのフランジ六角ボルト(タッピン) M5×10 が仮止めできることを確認してからキャビネットを立て、コーナー金具
に突き当たるまで本締めしてください。

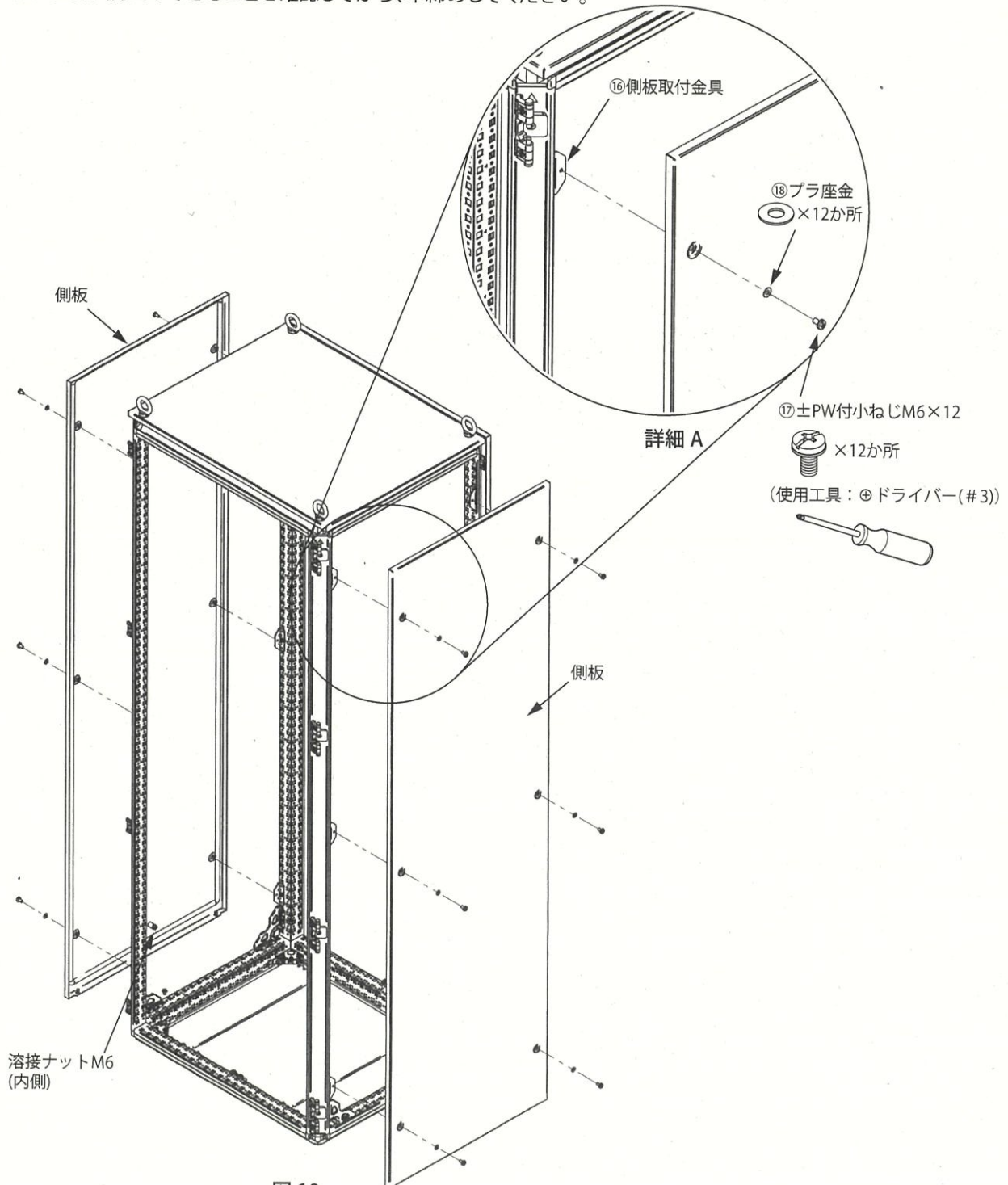


6. 側板の取付け

⚠ 注意					
⊘	側板は重量物です。けが防止のため、一人で作業を行わないでください。				
!	必ずブラ座金を挟んでください。ブラ座金忘れによりIP性能を保持することができなくなります。				
!	<p>使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取付けの際は、適正締付トルクにて締め付けてください。締付けが不十分な場合、破損・落下・所定のIP性能が得られないなどの原因になります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>ねじの呼び</th> <th>適正締付トルク N・m</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>±PW付小ねじ M6×12</td> <td>2.9 ~ 4.4</td> </tr> </tbody> </table>	ねじの呼び	適正締付トルク N・m	±PW付小ねじ M6×12	2.9 ~ 4.4
ねじの呼び	適正締付トルク N・m				
±PW付小ねじ M6×12	2.9 ~ 4.4				

(1) 側板の内側にある溶接ナット M6 を下側にして取付けます。(図 10 詳細 A)

(2) 全てのねじが仮止めできることを確認してから、本締めしてください。



7. 扉の取付け

⚠ 注意



扉を勢いよく閉めないでください。
指を挟みけがの原因になります。



扉は重量物です。けが防止のため、一人で作業を行わないでください。



ギヤホイールカバーを外して調整しないでください。一度外すとギヤホイールカバーが変形し、ギヤホイールを保持できなくなります。

扉蝶番とギヤピンヒンジの軸が合わない状態で、無理やりねじ部を回さないでください。ギヤピンヒンジが破損するおそれがあります。破損した場合は、ギヤピンヒンジ全体が交換対象になります。

- (1) 扉の取付けは、本体に対し 90°を目安に扉の開角度を保持した状態で、本体のギヤピンヒンジに扉蝶番をはめ合わせます。
- (2) ギヤピンヒンジのねじ部を図の矢印の方向にドライバー（#2）で回して、上下の蝶番ピンを全てはめ合わせます。
 ①中央上部、②中央下部、③上部、④下部の順で行い、扉がスムーズに開閉することを確認してください。
 (図 11 詳細 A)
- (3) ドアステーにドアストップを下から差し込みます ①。
 扉の開角度を約 45°に保ち、ドアストップをフレームヨコの蝶番側角穴に差し込みます ②。
 ドアストップがスムーズに移動し、所定（扉開角度 85°、110°）位置で固定されることを確認してください。
 (図 11 詳細 B)

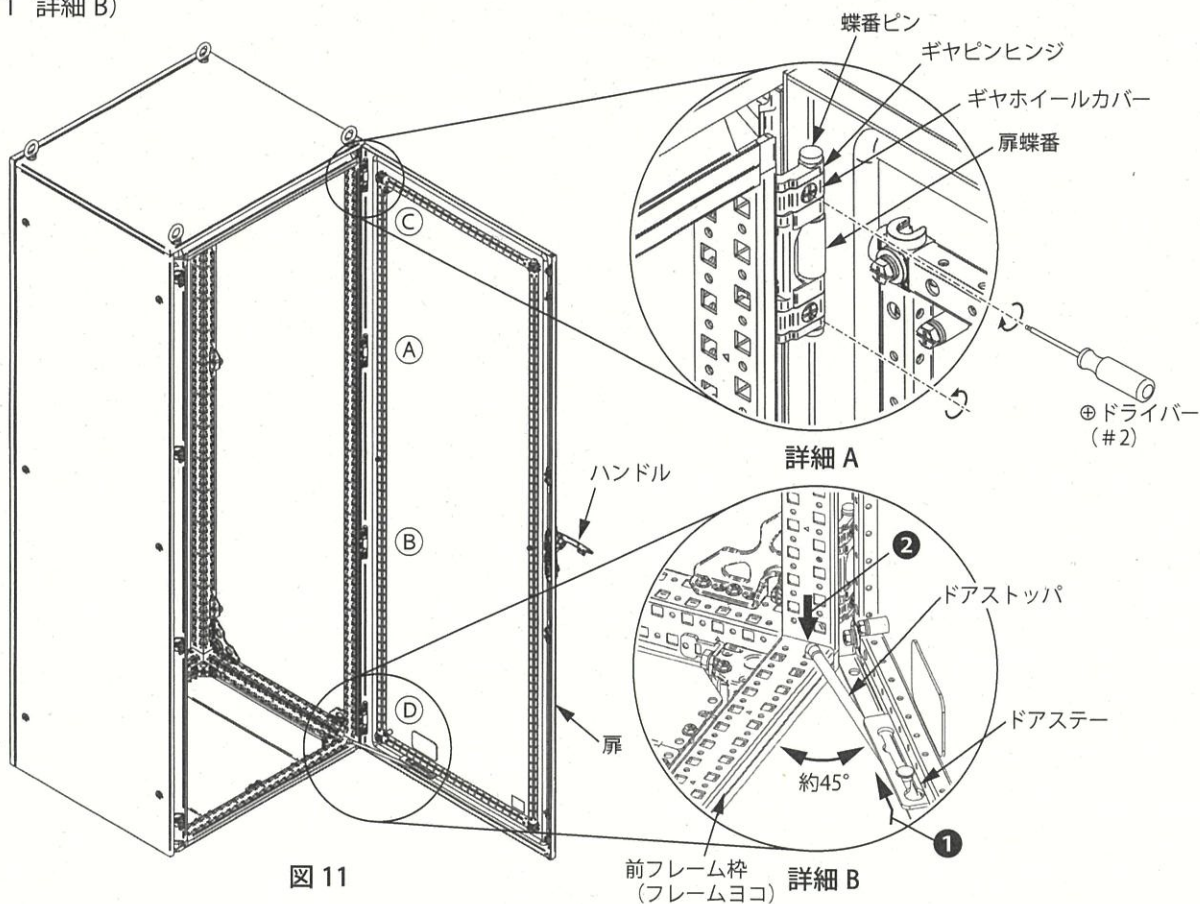
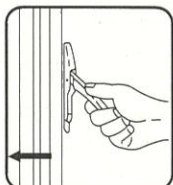


図 11

- (4) ハンドルを操作し、扉を閉めます。ハンドルがスムーズに操作でき、扉がしっかり閉まることを確認してください。

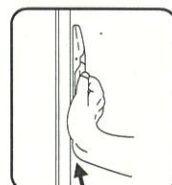
閉め方



(1) 取手を持ち、取手が完全に上に上がった状態のまま扉を閉めていく。



(2) 扉を押えながら取手を閉め、ロッド棒がロッド棒受金具に掛かると確認する。



(3) 引っ掛け状態になったら手のひら全体で取手を押し扉を閉める。

■その他

●扉の取外し方法

「7. 扉の取付け」の逆手順で、取外してください。
 (ギヤピンヒンジは①→②の順序で、ねじ部を矢印の逆方向に回してください。)

●逆開き扉への変更方法

- (1) 扉を外してください。(上記「扉の取外し方法」参照)
 - (2) フレーム(扉面側)に取り付いているギヤピンヒンジとロッド棒受金具(ロッド棒側)を左右4か所入れ替えてください。(図12)
- 【ご注意】** 高さ2300mmの機種の場合、一番上のロッド棒金具に付いている誘い込み金具を下向きに変更してください。
- (3) ハンドルの取手を開いたまま、扉の裏より+小ねじM5×5を外してください。(図13 詳細A)
 - (4) ハンドルを逆向きにして取付けてください。ロッド棒にハンドルのリンクが掛かり、取手の動作に連動してロッド棒が上下することを確認してください。
 - (5) ドアステーおよびクッションゴム2個を上下対象位置に付け替えてください。(図13 詳細B、C、D)

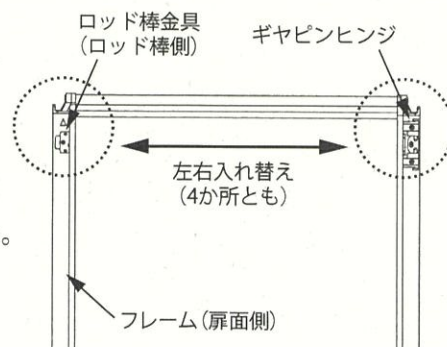


図12

【ご注意】 ドアステーは抜き穴の向きに注意して取付けてください。(図13, 詳細B)

- (6) 扉を取付けてください。(「7. 扉の取付け」参照)

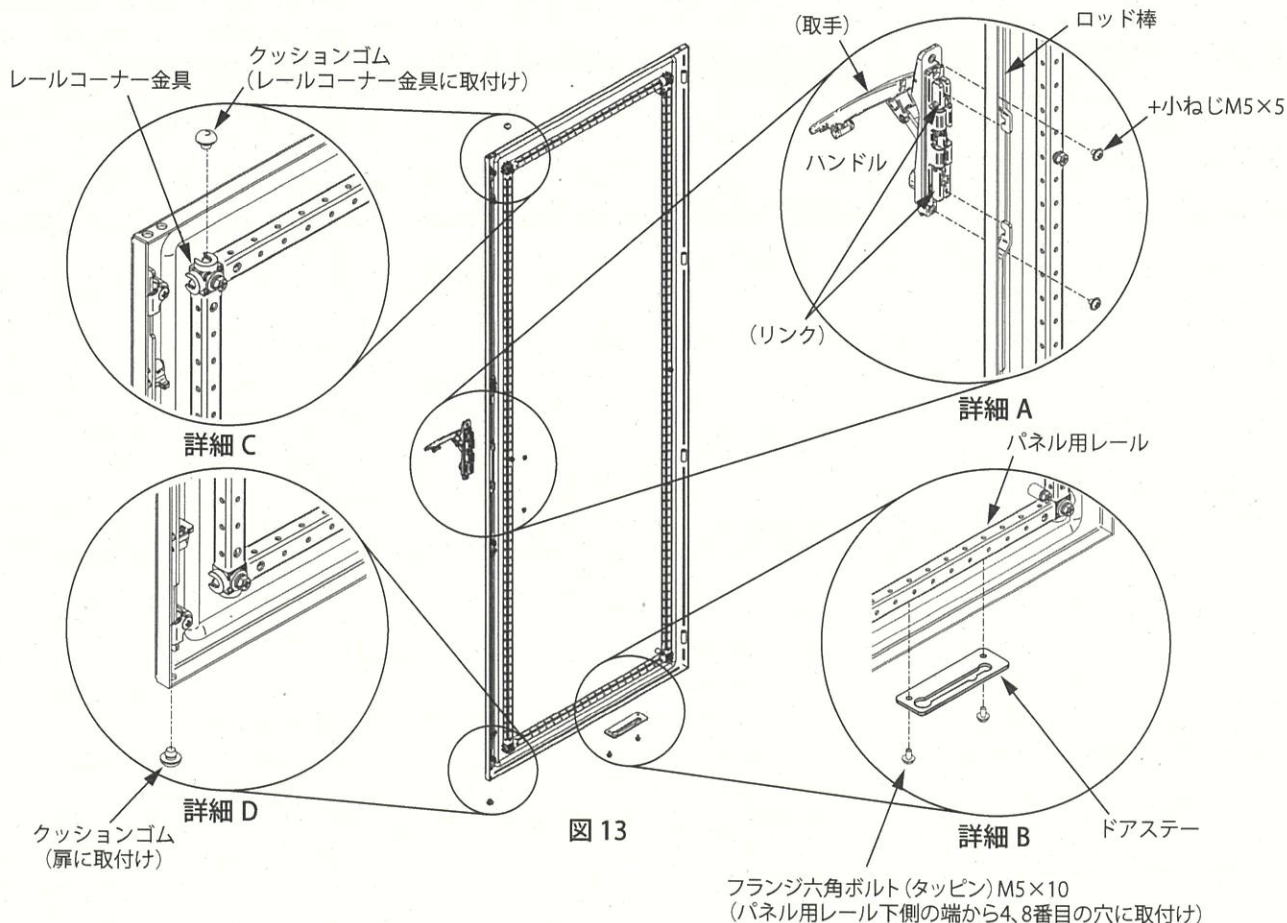


図13

●移設時の分解方法

「■組立手順」の逆手順で、分解してください。

MEMO

お問い合わせ先

ご不明な点がありましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。

TEL (0561) 64-0152

- お客様からご提供いただいた個人情報は、商品の修理やご相談への対応、および情報の提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、グループ各社と共同で利用させていただく場合があります。
- 個人情報はあらかじめ本人の同意を得ないで、第三者に提供することはいたしません。

本製品の故障や瑕疵により、当社の予見の有無を問わず生じた二次損害について、当社は一切の責任を負いかねます。仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

2019年11月
B917311921
SK-084D